



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部 活動報告

発行人：外山 学
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel. 06-6441-4918 Fax. 06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP square.umin.ac.jp/pc-kinki/

ニュースレター No.10 (2015.3)

[地方会報告] 第28回近畿地方会 (11月30日)

仁科 昌久 (仁科医院/大阪府豊中市)

大阪千里阪急ホテルにおいて、第28回近畿地方会が開催された。大会長の上辻浩夫豊中市医師会会長に引き続き、来賓として、日本プライマリ・ケア連合学会丸山泉理事長、大阪府医師会伯井俊明会長、大阪府健康医療上家子部長、豊中市浅利敬一郎市長と、全員代読無しの挨拶で開会式が行われた。

主な招待講演は、特別講演「iPS細胞による網膜治療」理化学研究所多細胞システム形成研究センター網膜再生医療研究開発プロジェクト 高橋政代プロジェクト

リーダー▽教育講演1「災害最前線-福島から全世界に伝える労働者と学生・児童の震災のその後と、産業医・学校医へのメッセージ」福島県立医科大学医学部免疫講座 大平哲也教授(日医認定産業医講習会と大阪府医師会指定学校医講習会を兼ねる)▽教育講演2「医科歯科連携の要-接触燕下障害のキュアとケア」元大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座 館村卓准教授▽教育講演3「心身一如と治未病を踏まえた薬剤師漢方の展開」元富山大学和漢医薬学総合研究所 溪忠人教授▽在宅医療講演1「地域包括ケアシステム構築に向けて望ましい在宅医療とは」大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻総合ヘルスプロモーション科学講座 神出計教授▽在宅医療講演2「虹ねつと説明」豊中市健康福祉部いきいきセンター高齢者支援課 後藤良輔課長補佐兼地域支援係長、であった。

その他、ランチョンセミナー4題、一般口演61題、ポスター口演28題が行われ、参加登録者だけで約1000名、一般市民参加者を加えると、軽くこの数字を越えてしまう大盛況となり、四半世紀ぶりに豊中市医師会主催で開催された同近畿地方会は、成功のうちに幕を閉じることができた。



開会式 上辻大会長 挨拶



上辻大会長 大阪府医伯井会長 学会丸山理事長

近畿ブロック支部 (KPCA :Kinki Primary Care Association) について

近畿ブロック (滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県) に所属する学会会員で構成され、ブロック代議員会を最高議決機関としています。ブロック支部会費は必要ありません。日常的な運営は幹事会が行っています。



- ・支部長 : 外山学 (学会理事)
- ・副支部長 : 雨森正記 (学会理事)、大島民旗 (学会理事)、戸田和夫
- ・幹事 : 福原俊一 (学会理事)、朝倉健太郎、足立光平、石丸裕康、梶山泰男、木戸友幸、小泉俊三、関透、空地顕一、高木幸夫、武田以知郎、羽野卓三、松井善典、松村理司、水野融、三ツ浪健一、吉本清巳
- ・監事 : 大島久明、澤木政光

【勉強会報告】2015 関西プライマリ・ケア関連合同新年セミナー・互礼会 (1月11日)

竹中裕昭 (竹中医院／大阪市浪速区)

今年も「深めよう絆、育てようプライマリ・ケア」をテーマに、関西のプライマリ・ケア関係のみなさまに御参加いただき合同新年セミナー・互礼会を開催した。

今年は、外山 学日本プライマリ・ケア連合学会近畿ブロック支部長に「プライマリ・ケア連合学会近畿ブロック支部のこれまでとこれから～新年会バージョン」と題した特別講演を行っていただいた。外山先生が受けられた研修のお話から始まり、都会と田舎のプライマリ・ケアの違い、日本プライマリ・ケア連合学会の設立経緯、近畿ブロック支部の歴史と現状報告、そして課題についての御講演をいただいた。



続いて認知症とコントロール不良の糖尿病が併存する症例について、臨床倫理四分割表に沿った検討を行った。欧米の文化を日本にそのまま適応することや、もともと四分割表は、延命治療など生死のかかる場面で使用されていたのでプライマリ・ケアへの応用には無理があるというようなご意見が出て、最終的には「医学的見解、患者・家族の意向、社会の状況の三分割」で検討するのがよいのではないかという見解に達した。

最後に癌のいわゆる「ギアチェンジ」に遭遇した時の医療者の対応について、事例を通して検討した。基本はやはり疼痛コントロールで、基本が甘ければ患者の QOL を損ねる。スピリチュアルペインには沈黙を活かす、手を握る、患者と共に泣くなどの対応がよいのではというようなディスカッションが行われた。

【支部報告】京都支部立ち上げ準備会 (2月11日)

田原 正夫 (おくだ在宅クリニック／京都市左京区)

京都支部立ち上げにむけて下京西部医師会事務所で会議を行いました。出席者は関透先生(関内科・循環器科)、木村進先生(木村内科クリニック)、小泉俊三先生(七条診療所)、福原俊一先生(京都大学)、水野融先生(岡田医院)、田原正夫(おくだ在宅クリニック)、オブザーバー参加 山下琢先生(下京西部医師会会長)で議題①京都支部総会の準備、②支部役員の決定、③規約作成などについて議論しました。

①京都支部総会については9月27日(日)に京都大学で行うことを決定しました。内容は午前プレセッションを行い、午後に総会として基調講演と役員・規約の確認、研修施設からの研修活動報告を行う予定となりました。

②支部役員については支部長に小泉俊三先生、副支部ならびに会計・名簿管理者に関先生を選任いたしました。他役員として運営委員(仮称)は支部長が代議員または非代議員から選出することにしました。役員任期は今期をH27年度末とし、次期からは任期を2年としました。

③規約作成については他支部のものを参考にさせていただきながら作成することとなりました。次回会議を筑波での日本プライマリ・ケア連合学会学術大会6月14日(日)の昼に行うことを決定しました。良いかたちで京都支部がスタートできるよう鋭意準備を進めてまいります。

【支部報告】大阪支部設立に向けて

梶山 泰男 (大阪府中央区東医師会)

外山 学 (益田診療所／大阪府門真市)

11月30日(日)の府県別代議員会で承認された「運営委員会」が中心となって、3月15日(日)に発足記念総会を開催すべく準備を進めました。今回は時間的制約が大きく、このスタイルが精一杯でしたが、総会に参加された方々のご協力とお知恵をいただき、今後はより広く、大阪府の会員の力が集まる形で支部活動を充実さ

せていく計画です。原稿締め切り日の関係で、総会の内容は次号で報告させていただきます。尚、現在の運営委員会MLメンバーは、以下の16名です(敬称略)。

梶山泰男(中央区東医師会)、大島民旗(西淀病院)、太田祥彦(太田診療所)、恩田光子(大阪薬科大学)、梶原信之(市立池田病院)、木戸友幸(木戸医院)、坂上祐司(東住吉森本病院)、作 功一(作医院)、鈴木富雄(大阪医大)、高橋直子(近畿大学薬学部)、竹中裕昭(竹中医院)、外山学(益田診療所)、仁科昌久(仁科医院)、西山順滋(関西医大)、森村美奈(大阪市大)、山寺慎一(菜の花診療所)

ちなみに、これまで大阪地区勉強会として活動を続け、発足記念総会には協賛名義で支援を行った「プライマリ・ケアを語ろう・おおさか」は、大阪の会としては発展的に解消する一方で、府外あるいは学会非会員を含めて一定以上のニーズ、支持を得ていることから“近畿ブロック支部内の勉強会”として存続、貢献していく方針が出されております。

[支部報告] 滋賀県家庭医療指導医FD研修会、滋賀支部設立記念講演会(2月8日)

松井 善典(浅井東診療所/滋賀県長浜市)

滋賀県支部活動として2月8日にFD(Faculty Development)研修会と、雨森滋賀県支部長(学会理事)からの記念講演会を開催しました。

FD研修会は県内の指導医が集い、滋賀の家庭医・地域医療のビジョンとそのためのキャリアパスや人材育成(卒前・卒後・生涯教育)のイメージを1年かけて構築することを目標としつつ、以下の3つのテーマを中心に来年度のFD研修会を開催する方向となりました。



- ① 家庭医・総合診療医の教育に関わる組織マネジメントとリーダーシップ
- ② 1人の学習者をどのように扱うのか(指導医-学習者関係のAtoZ)
- ③ 指導医としての生涯教育、それをいかに後輩に伝えるか



記念講演では「家庭医今昔物語」と題し、雨森医院の歴史のお話から始まり、近現代の日本の地域医療の現状を知る貴重な話題となりました。また続いての雨森先生の自伝からは、日本の家庭医療のここ30年の栄枯盛衰の物語や、様々な縁が結ばれて今があることなど、今と言う時代の意味を改めて感じるエピソードと楽しい語りに満ちていました。

身近なロールモデルから改めて深く学ぶ機会となり、記念すべき設立に相応しい支部活動の魅力を感じるひと時になりました。

○第29回近畿地方会

<http://web.apollon.nta.co.jp/primarycare29kinki>

「つなぎ育てる、明日へのケア ~10年後にも輝き続ける地域医療を目指して~」

- ・会期: 2015年11月29日(日)
- ・大会長: 古家 仁(奈良県立医科大学医師会 会長)
- ・会場: 奈良県社会福祉総合センター(奈良県橿原市大久保町320-11/近鉄橿原線畷傍御陵前駅東すぐ)
- ・主催: 奈良県立医科大学医師会
- ・共催: 橿原地区医師会

○講演会等のご案内

2015年4月13日(月)、4月14日(火) 国立京都国際会館

世界医学サミット(World Health Summit) 2015

公式HP: <http://www.worldhealthsummit.org/regional-meeting/>

「Resilience(折れない力)を医療に -医学アカデミアの社会的責任」

認定医・専門医更新のための単位: 日本PC連合学会、日本医師会 各5単位



WORLD
HEALTH
SUMMIT

【ご案内】地域支部・グループ研究活動に対する補助の公募 (2014.6.22 一部改定部分を下線で表示)

近畿ブロック支部では、府県単位での地域支部活動や、さまざまなグループ活動を積極的に支援するために、補助を行っています。申請用紙(事務局にご請求下さい)は簡便に作っておりますので、お気軽にご応募下さい。今後も適宜改訂していきますので、より良いしくみにするためのご意見などもお願いいたします。

(1) 補助の要件

- 1) 主催者が日本プライマリ・ケア連合学会(以下、学会)の会員であること
- 2) 近畿ブロック支部の活動の趣旨に沿っていること。ただし、単なる懇親会は補助の対象外とする。

<参考> 日本プライマリ・ケア連合学会 近畿ブロック支部会則

第3条 本会は、近畿ブロックにおけるプライマリ・ケアに関する学術の進歩、知識の普及ならびに人材の育成を図り、プライマリ・ケアの充実および向上に寄与することを目的とする。また、人々が健康な生活を営むことができるように、地域住民とのつながりを大切に、継続的で包括的な保健・医療・福祉の実践及び学術活動を行うことを目的とする。

- 3) 学会本部や製薬会社など、他の主体からの補助や協賛と重複していないこと。(大学や病院、医師会等の関係団体による支援は可)
- 4) 補助金の振り込みを受けるための銀行口座を有していること(個人名義で可)
- 5) 学会近畿ブロック支部から補助を受けていることについて、案内文書に記載するか当日アナウンスを行うこと。可能であれば、学会への入会勧奨をすることが望ましい。

(2) 申請の手順

- 1) 申請にあたっては、所定の書式に準じた申請書を提出すること。開催前の申請で、その時点で記載及び添付不可能な項目がある場合は、会合終了後に遅滞なく当該事項について提出すること。尚、補助金の使途を明記し、対応する領収書のコピーを添付すること。
- 2) 申請書2枚のうちの1枚は、学会本部へ「専門医・認定医研修講座」又は「認定薬剤師研修講座」の企画書を提出している場合(すなわち専門医・認定医、認定薬剤師の単位を申請している場合)、そのコピーをもって代えることができる。
- 3) 報告の形式は、近畿ブロック支部ニュースレターへの原稿提出とする。(概ね、写真1点+600字、写真が困難な場合は文字のみ 700字) また、交流推進のため地方会での一般演題発表も歓迎する。

(3) 補助額

- 1) 基本活動補助費(同一主催者には年1回のみ)として、学会会員10名未満の会の場合1万円、学会会員10名以上の場合3万円を補助する。
- 2) 会合1回ごとのオプションとして、都道府県など一定地域(あるいは職種等の一定範囲)の全会員に案内を送付する場合、ブロック支部事務局より名簿を提供し、当該府県(職種)分の案内人数分の郵送料(82円/人)を補助する。尚、名簿の提供は、郵送物発送のための必要最低限の形式とし、申請者は「当該勉強会の案内以外の目的で名簿情報を利用しない」旨の文言にサインするものとする。

支部からのご連絡

ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております! 又、会員の方の関係した講演会等の案内欄を設けております。掲載を希望される方は、1)日時、2)会場、3)講演会名、4)講演会の対象者、5)演題と演者、肩書き(主要なもの1つ)、6)主催者(及び共催者)、7)連絡・問い合わせ先、8)HP(あれば)、9)事前申込の要否、10)参加費用、11)取得可能単位を事務局までご連絡下さい。学会及び支部の精神に則り、会員に役立つ情報提供をよろしくお願いいたします。

尚、学会会員の都府県(支部)の所属は、原則「勤務先」の所在地となっており、ブロック支部事務局に申し出るにより、移動(又は重複)が可能です。勤務地以外の府県支部への所属をご希望の方は、近畿ブロック支部事務局まで、ご連絡をお願いいたします。